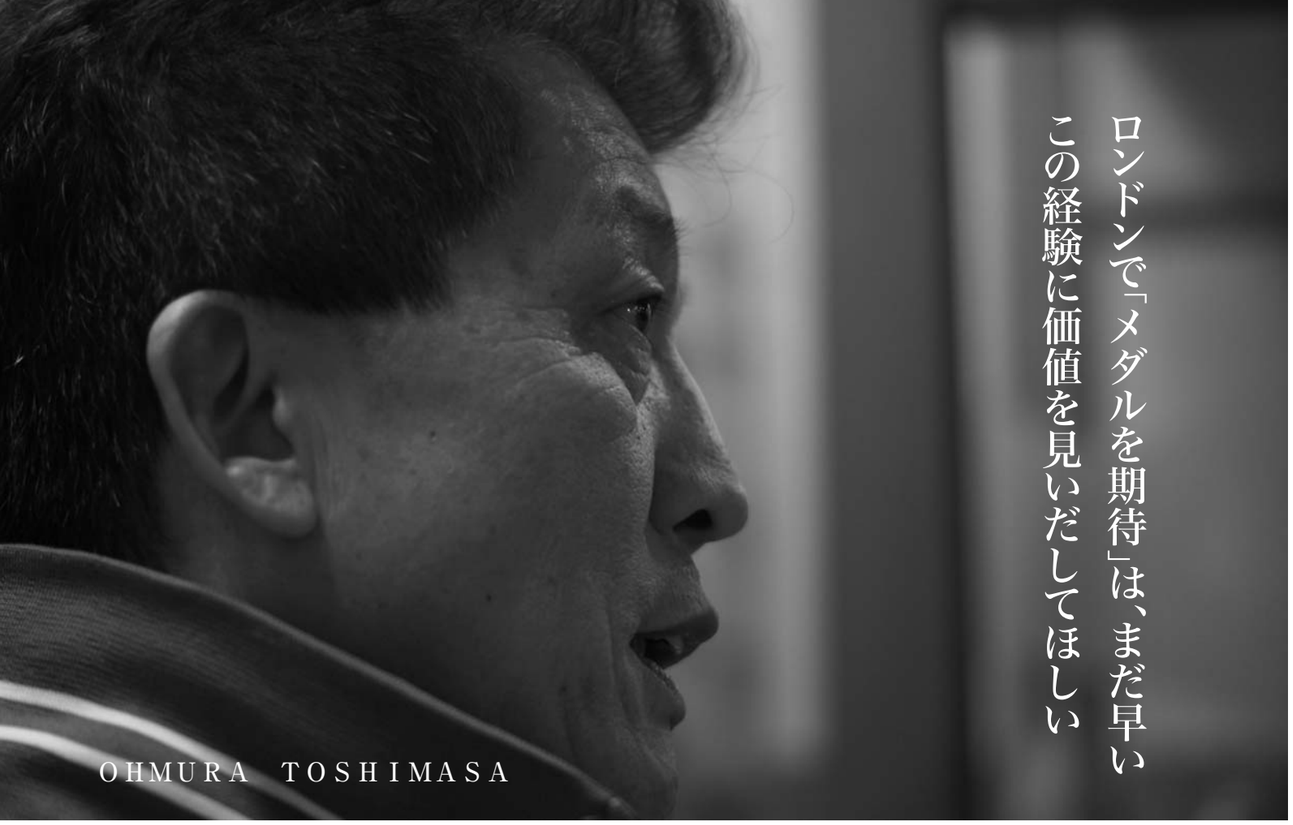

ロンドンで「メダルを期待」は、まだ早い
この経験に価値を見いだしてほしい

父・敏正（としまさ）の言

本川根カヌーレーシングチームを立ち上げ
指導者としても長く活躍した大村敏正さん
いつも朱澄さんを一番近くで見てきた
父の目線、監督の目線でエールを送る

大村敏正　大村朱澄さんの父にして本川根カヌーレーシングチームの産みの親。わかふじ国体前はB＆G海洋センターに勤務し開催準備や選手育成などに携わる。静岡県カヌー協会副理事長。

血だらけのカヌー

わかふじ国体を本町に誘致しよう、地元の選手を国体に送り出そうという気運が高まっていた頃、私はB＆G海洋センターで社会体育部門の仕事をしていました。

その盛り上がり方を見て「じゃあ、おれがカヌーのクラブをつくるよ」と一念発起して、本川根カヌーレーシングチームを立ち上げたんです。2人の兄はほぼ強制的に入会させました。先に入会している子がいる方が、他の子を勧誘しやすかったんです。朱澄は、年齢制限のため「わかふじ国体」に出場できないことが分かっていましたから、入会を勧めたことはありませんでした。ただ、兄たちが毎日どこかに出かけていく、自分はぽつんと家に残される…。寂しかったんでしょう、兄をうらやましがっていましたからね。ちょっくちょく練習に付いてくるようになったんです。最初は見ているだけでしたが、いつの間にか入会していました。

私が叱るのは、いつも2人の兄ばかり。朱澄には怒ったことがないんです。ひいきではなく、怒るところがないんですよ。言われたことはちゃんとこなしていましたから。上級生と同じメニューを与えても、必死になってやり切っていました。ハンディをやろうなんて言ったら、こっちがおこられてしまいそうな雰囲気がありましたよ。

ある日、朱澄がおりたカヌーを見ると、カヌーの中が血だらけだったんです。どこをケガしたんだ！って本人に問いただすと…。鼻血だったんですね。朱澄は小さい頃、鼻が弱くてよく鼻血を出していたんです。その時も練習中に鼻血が出たらしくて、ぽたぽた落としながら、それでもカヌーをおりなかったんです。普通の子であれば、監督に報告して、岸辺で休むなどの処置をする。それが当然なんですが、朱澄の場合は違いましたね。監督に報告したら「お前は休め」って言われる。それがいやだったんだと思います。自分の子どもながら「怖いな」と危機感を覚えました。やり遂げたいという気持ちが前に出過ぎてしまい、自分の体調よりも練習を優先させてしまう。これは選手を管理する指導者にとって、何よりも怖いことです。今はそんな心配はしていませんが、あの時は本当にぞっとしました。

メダルはまだ無理

今さら私が技術的なアドバイスをする余地はありません。指導者だった私のレベルを、朱澄はとっくに超えています。親としてはうれしくもあり、寂しくもありといったところでしょうか。代表の合宿などを通じて、みっちりトレーニングしていますから、何も心配していません。ただ、私が毎回必ず話すのは「セルフコントロール」。つまり体調管理をしっかりやれということです。合宿にしろ大会にしろ、自分の実力を最大限発揮するためには、日頃のトレーニングをいかに密度濃くできるかにかかってきます。そのためには風邪なんて引いてられません。ケガだってそうです。一日寝込んで練習時間を無駄にするくらいなら、普段から体調はだけは気をつけろと。それがだけは必ず話して聞かすようにしています。

今の実力では、ロンドンオリンピックは「参加するだけ」になってしまうでしょうね。アジア予選で中国選手に負けてしまうようでは朱澄もまだまだ。世界のトップとは渡り合えません。今は世界のトップレベルの舞台に立たせてもらうだけでありがたいこと。既に朱澄の目は、次の、もしくはその次のオリンピックでのメダル争いを視野に入れていると思います。

ここまで、階段を一つ一つのぼるようにステップアップしてきました。そして、ここからまた次へとつなげていくことが大事なんです。

朱澄は最近、応援してくれる人たちに「皆さんに良い結果を報告したい」と言っているようですが、それがイコール「メダル獲得」ではないと思います。

オリンピックに出場するという貴重な経験。朱澄なりに、価値を見いだして帰ってきてほしい。それがきっと、さらなる成長につながります。

自分に課した「約束」

3人の子どもたちは、私の仕事の関係で、強引にカヌーの世界に引き入れたようなもの。たくさんの喜びをもらいましたが、つらい思いもさせたと思います。その分、これからは私が恩返ししたい。3人がカヌーを続けていく間は、その気持ちを尊重してやりたいんです。「バイトもするな」と伝えてあります。「おれが全面的にサポートするから、時間があったら1秒でも長くカヌーに乗れ」と。それについては、朱澄も、2人の兄についても全く変わらない私のスタンスなんです。

私はこれからも、子どもたちの成長をずっと見守り続けるし、全力でサポートを続けていきます。これは自分自身に課した約束であり、責任でもあるんです。

特集
約束の道
大村朱澄・努力でつかんだロンドン行きの切符

父として、指導者として…。朱澄さんの成長を見守り続けた22年
今、愛娘に対して、どんな思いを抱くのか、どんなエールを送るのか